

章をなすつゝ行ふべきである。だから、一般大衆へのアジ
プロの結語も「××組合へ入れ！」でなく「工場委員会を
作れ！」もしくは「闘争委員会を作れ！」にすべきであ
る。(但し、分會の署名入りのニュースを「ジャン」刊行
することは絶対に必要だ。それを躊躇すべき理由は毫もな
らぬ。)

(ウ)工場内が少し動き出して来れば、戦闘的分子を探し出
して、分會を擴大する機会はいくらでもある。相談會、座
談會で戦闘的分子を探し出すことも出来れば、組合の常任
が、分會のメンバーの報告に基いて、戦闘的分子を秘密に
集めることも出来るし、こちらから戦闘的分子の自宅を訪
問してもいい。

(ト)「そんな手工業的方法では？」といったやうなこと
を考へる人もあるかも知れないが、敵の警戒網が嚴重に張
りめぐらされてゐる大工場に我々の組織を確立するためには、
さうした方法が絶対に必要なのだ。一舉に數十人数百
人の大衆を組織しやうなどと考へることは、夢だ。

(チ)但し、分會が相當に強化され、自主的工場委員会が結
成されたら、その時こそ、無論、公然と「組合へ入れ！」の

大工場になれば、職場が異なると、餘り頭を悩ませる機会さ
へないのだから、いろ／＼な補助組織を通じて、なるべく
多くの未組織大衆と接觸することが、組織を進ます上には
非必要だ。殊に工場外のオルガナイザーが、工場内の大衆
と接觸するためには、補助組織を利用することが非常に效
果的だ。

(ハ)工場内に、いろ／＼な、さき上げたやうな補助組織
が出来てゐない場合には、それを積極的に作る必要があ
る。殊に工場野球團の組織なんかは、是非作るべきだ。大
抵の工場には、野球すきの青年労働者がうんとゐるから、
少し巧みにリードすれば、それを作ることは、さして困難
ではない。

(ニ)それから、讀書會を作ることも有効だ。毎月、十錢位
の會費を出し合つて基金を作り、會で、いろ／＼な雑誌を
買ひ揃へて回覧したり、會の圖書館を作つて、自由に貸し
出したり、一定の日に集つて、朗讀會をやつたり、或る特
定の本の批判會をやつたり、するやうな仕事をするのだ。
無論、分會のメンバーがその會を階級的方向へリードす
べきだが、最初から、かたい本ばかり集めて、一般の未組

アジ、プロを敢行し、全従業員を大量的に、分會へ組織化
することに努力すべきだ。本来、大衆の最も端初的な組織
であるべき労働組合が、更らにその下に、工場委員會の
やうな、より大衆的な、より端初的な闘争組織を作らね
ばならなくなつたのは、帝國主義時代に於ける甚大なる大
衆の動員と、勝利の前、後に於けるプロレタリアートの
この目的のためである。

I 補助組織の利用について

(イ)分會のメンバーがなるべく多くの大衆に接觸し、左翼
の影響を深めるために、様々の補助組織——スポーツ團、
その他の様々の娯樂機關、讀書會、文化サークル、工場(職
場)座談會、工場研究會、等々——を利用することは極
めて必要である。

(ロ)これらの組織を通じて、平生、なるべく多くの大衆に
接觸してゐなければ、いざといふ場合に、何か闘争プラン
をたてても、それを容易に大衆化する事が出来ないし、
大衆の中から、しつかりした人物を発見する機会も少いわ
けだ。同じ職場で働いてゐるものなら大抵見當はつくが、

大衆の寄つつかないやうなものにしてつてはならな
い。さうなつたら補助組織の役をなさないやうになつて
了ふから(分會の研究會なんかと同じに考へてはならな
い)讀書會へは、特に反動的なものでもない限り、面白さう
な本をどん／＼集めるべきだ。そして、毎月『會報』を出
して、どし／＼會員をふやす方針を取ることが必要だ。ど
こか(事務所を持つ必要がある。無論従業員のうちでさし
つかへない)

(ホ)工場座談會は、まとまつた、系統だつた研究會ではな
く、時事問題や特別の題目をとらへての座談會だ。たとへ
ば、ドイツで大統領の選挙が始つてゐた時なんかには「ピ
ットラーとヒンデンブルグとテールマンの話」でも主題に
してやれば、相當に興味のあるしかも役にたつ話をするこ
とが出来るとも、これも、なるべくかたつくるしい題目をさけ
て、興味をもたせながら、階級意識を注ぎ込むやうにする
ことにすることが肝心だ。一度来て二度目から來なくなつ
て了つたといふやうなことなく、逆に二度目には友達をさ
そつて來たといふやうな會にしなければ駄目だ。この座談
會は、獨立の組織として持つてもいいし、讀書會の一事業